

[研究ノート]

十五年戦争期における大日本三曲協会の演奏の場： 雑誌『三曲』を通じて

福田 千絵

1. はじめに

本稿は、十五年戦争期に設立された音楽団体「大日本三曲協会」の音楽活動を、雑誌『三曲』をもとに整理し、邦楽の1つである三曲（地歌・箏曲・尺八）の戦争期における演奏の場の特徴を明らかにすることを目的とする。

これまで戦争期の邦楽演奏に関して筆者は、一般の三曲演奏会の状況（福田2014）、雑誌『三曲』にみられる演奏会の統制（福田2015）について検討してきた。本稿は、その延長として、芸能統制下で1940年に設立された大日本三曲協会の音楽活動を取り上げる。協会を通して発行される技芸證が活動に必須となり、東京在住の三曲家がこぞって入会したため、協会の音楽活動には、戦争期の特殊な演奏機会の事例として検討すべき特徴がある。

大日本三曲協会は、雑誌『三曲』主幹の藤田俊一が、技芸證給付に関する警視庁令に対応し、在京の三曲教授者をまとめる形で設立された。1944年に名称を「三曲協会」に改名し、戦後は「日本三曲協会」と名称を変え、現在に至る。そこで、本稿は、協会の音楽活動についての記述が詳しい、『三曲』と後継誌『日本音楽』を主な資料とし、演奏状況、曲目について検討する。なお、引用の方法は、『三曲』の1940年5月号24頁であれば（40：5：24）と表し、『日本音楽』は1944年7月号と8月号のみであるので、8月号の場合は（日8：31）のように表す。

2. 大日本三曲協会が関係した音楽活動

資料1に大日本三曲協会（以下、協会と略記）関連の演奏を示す。協会の関わった演奏の場は、(1)尺八報国隊、(2)新作発表、(3)芸能大会、(4)三曲協会演奏会、(5)慰問演奏、(6)三曲隣組演奏会、の6種類に分けられる。なお、本研究対象の最終号『日本音楽』8月号は、記事内容から、実際の編集終了は10月5日以降10月27日以前とみられ、資料1の<43><44><45>の演奏会が実施されたという記述の確認はできていない。

(1) 尺八報国隊

尺八報国隊は、数十名以上が屋外で行進しながら尺八を合奏する形式である。設立直後の40年の8月から12月までに集中して9回、42年に1回実施された。概要を表1にまとめたが、選曲は、時局に合った曲および合奏が容易な曲であった。少人数の虚無僧が歩きな

がら吹奏することは伝統として行われており、尺八報国隊は、その延長とみることもできる。日本の禅の精神を示し、国威高揚に貢献するのに適当であったと思われる。以下に、実施状況を述べる。

(1)-1 自主企画の尺八報国隊

<4>は、尺八報国隊による演奏の最大のもので、協会発足と同時に尺八部が企画した。東京日日新聞社主催、協会協賛、軍事保護院、財団法人軍人援護会後援。新聞社主催であるが、吉田晴風が関わって協会の尺八部の企画となった（藤田1973a）。実施は銃後後援強化週間にあたり、「皇紀二千六百年を記念し、尺八家二千六百名を動員」することが計画された（40：7：57）。当日は、2千数百名の尺八家が、日比谷公園から宮城前広場を經由して靖国神社までを行進し、その実施要綱と申込案内、楽譜と曲目解説、長文の報告文が『三曲』に掲載された。

(1)-2 その他の尺八報国隊

表1の<1><2><6>のように、舞台上で行進なしで実施された場合もあった。

また、<7>と<12>は、協会主催ではないが大阪と名古屋に波及したものの、<8><10>は、東京市の依頼に協会が協力したものであった。

最後の尺八報国隊<21>は、1942年2月であった。東京市、朝日新聞社共同主催「新嘉坡陥落祝賀大東亜戦争士気昂扬音楽大行進」への参加が、2日の協議会で企画された（42：2：41-42.）。これは、洋楽と邦楽の5千名を超える音楽大行進で（戸ノ下2011：60、櫻本1986：98）、英国マレー軍の本拠シンガポールの陥落を待って挙行しようとするもので、日取りは未定で、当日の行程のみ決まっており（42：2：42）、実際には18日に挙行された（42：3：40）。

(2) 新作発表

新作発表は、協会主催（役員と若手）と外部委嘱に大別し、表2と表3にまとめた。新曲は40余曲で、多くに戦争色がみられた。協会主催では、当初は役員が発表したのが、翌年以降は若手の登竜門として協会の恒例行事となり、外部委嘱は役員が担当した。三曲における新作発表は、従来から個人活動として盛んであったが、協会設立後は、会派の垣根を超えた場が設けられた。

(2)-1 新作発表1:協会主催/役員

<6>は、協会発足時に箏絃部が企画し、大日本三曲協会主催、軍事保護院、軍人援護会、東京日々新聞社後援。新作は協会長と役員4名による。尺八報国隊が《なぐさめむ》

《国民進軍歌》を吹奏。そのほかは箏三弦により、表2の新作5曲と既存曲《雨夜の月》《皇国の華》《輝く陽》《都の春》《根曳きの松》《四季の眺》《御代の光》《なぐさめむ》を演奏（40：10：22-23、46-47.）。

(2)-2 新作発表2:協会主催/若手演奏家

<17>は、日本文化中央連盟が大日本三曲協会と「連絡提携を計り、新作曲を募集」した（41：7：46-47.）三曲初の作曲コンクール。10月10日締切で募集され（41：8：52）、応募数35曲が楽譜による一次審査（10月27日と28日）、審査員の隣室で演奏する第二次審査（10月31日）を経て表2の9曲の入選が決まった。当日は、新作のほか、理事が《松風》と《御山獅子》を演奏した（41：12：39）。『三曲』誌上では審査の様子、審査員の町田嘉章の講評と入選曲の解説が掲載された（41：11：48-50.；41：12：8-10.；42：1：15-17.）。

<31>は、第2回。主催は<17>と同じ。参加申込1942年11月30日、募集締切1943年2月20日、応募20曲（43：3：25）、3月中に入選発表。<33>では、1等と2等の作品が演奏され（43：7：28）、1等の作品はコロムビアレコードから発売予定となった（43：4：28）。

<45>は、第3回。新作募集は「現代邦楽全般」にわたり、参加申込1943年12月末日、作品提出1944年2月20日、発表は3月末日（43：9：26）。入選作品16曲中12曲を三曲協会員が獲得したので、協会単独主催で<45>を開催予定となったという（日8：31）。なお、「現代邦楽」は、1950年頃からメディアで使用されるようになった用語で、これは早い使用例と言える。

(2)-3 新作発表3:外部委嘱

<11>の当日の様子は『三曲』に詳しいが、洋楽の視点からは戸ノ下氏の記述もある（戸ノ下2008：63）。<36>は、作詞の高村光太郎が協会長の今井慶松に委嘱し（43：8：30）、戦艦献納演奏会となった（43：12：23）。ほかに、<40>および<43>。

(3) 芸能大会

芸能大会は、技芸者證を同じく要する舞踊協会、長唄連盟、あるいは洋楽の音楽団体とともに出演する形式。前述の新作発表の外部委嘱もこの形式が主であった。当時は頻繁に企画され、上意下達で協力を求められた。参加によって芸能界での位置が確保されるため、協会にとって社会的に重要な演奏機会であった。

<5>は、この年の10月の銃後奉公強化運動の中でも最も重要な行事であった。種々の団体ごとに《国民進軍歌》及び《みな兵士だ弾丸だ》が体操や舞踊を交えて奏された中で、

協会では、生田流箏曲家の宮城道雄が《国民進軍歌》を、山田流箏曲家の中能島欣一が《皆兵士だ弾丸だ》を編曲し、役員19名が4重奏で箏を奏し、女性会員58名が合唱した。曲を繰り返し、2度目には歌舞伎舞踊が踊られた。《国民進軍歌》は坂東三津五郎振付、《皆兵士だ》は藤間勘十郎振付（41：1：47）。

そのほかの芸能大会を表4にまとめたが、後半は理事の持ち回りが伺える。また、表4に記載していない<37><38><42>は、大日本芸能会設立に伴って開催されるようになった新しい演奏の場で、協会の役員が出演した（日7：45）（日8：32）。

(4) 三曲協会演奏会

協会成立以前の東京の一流三曲家による演奏会としては都新聞社主催の三曲名流大会があり、これは協会協賛で継続したが（<13><22><30>）、それとは別に大日本三曲協会演奏大会が開催されるようになった。2日間昼夜公演で計40曲が演奏されたが、1曲1会派が基本であったので、協会員総出の演奏会となった。発足翌年からの後発の企画であったが、協会の定期演奏会は現代でも継続しており、組織の中核をなす演奏機会として定着している。

<18>は、第1回。1941年4月に概要が決定した（41：5：55）。全40曲は、種目別に、山田16曲、生田10曲、琴古6曲、都山4曲、新日本音楽部4曲と割り当てられた。表5に曲目を示したが、時局に即した曲よりも古典曲が中心であった。当日は、直前の12月8日に勃発した真珠湾攻撃を受けて会を延期した組織もある中で開催を強行し、警戒管制下に行われたという。白衣勇士を招待し、収入は協会の臨時出費に備えるための積立金とした（42：1：42）。

<26>は、第2回。表5に曲目を示したが、一部に戦時を意識した曲目が選ばれた。<35>の第3回と<44>の第4回は曲目不明。第3回は戦艦献納演奏会（43：11：27）、第4回は軍人援護資金献納三曲会とし、29日のみの昼夜公演となった（日8：30）。

(5) 慰問演奏

三曲家による慰問演奏は、従来から個別に行われ、外地への慰問も散見された（福田2014）。ところが、1942年1月から芸能文化連盟が戦地派遣演芸慰問団を一元的に編成することになると、三曲が軍人に好まれず、盲人が多いことから、病院や戦地に赴いての演奏は、三曲協会に割り当てられなかった。次の例からは、上層部からの急な依頼に応じるケースが多くみられた。

<25>は、協会が直前に依頼を受け、萩岡松韻が引き受けた。《六段》《千鳥の曲》その他合奏2曲（42：8：41）。<32>は、数日前の会議中に打診を受けた吉田晴風が快諾し、出演した（43：6：24）。<34>は、海外からの帰国者講習会にて、新進の米川敏子、

衛藤公雄、宮城道雄、米川康男が、《みたみわれ》《春の海》《数え唄変奏曲》《御羽車》《千鳥の曲》を演奏した（43：12：25）。<39>は、今井慶松、伊藤松超、藤田俊一が出演。<41>は、7月の陸軍省恤兵慰問団編成会議で決定され、吉田晴風が団長として出発したもので（日8：31）、協会としては初の戦地への慰問であった。

(6) 三曲隣組演奏会

当時始まった隣保組織に倣い、地元の三曲愛好家を束ねた三曲隣組組織が、協会主導で東京市内の各区に設けられた。一般の演奏会としてすでに扱ったので（福田2014）、本稿では詳述しないが、1942年以降に三曲隣組献金演奏会が多数行われたことは特筆すべきである。収益金はすべて協会で集金するという面もあったが、会派ごとの通常の定期演奏会が芸能統制のために自粛を促され、43年9月に温習会廃止・演奏会許可制、44年には演奏会1年間休止に追い込まれた状況下でも、三曲隣組演奏会は、一般愛好家を含めた貴重な演奏の場となった。

3. 音楽活動のまとめ

対象資料から、大日本三曲協会が関係した演奏の場は次の6種類に大別できた。

(1)尺八報国隊、(2)新作発表、(3)芸能大会、(4)協会演奏会、(5)慰問演奏、(6)三曲隣組演奏会

以上のうち、戦後も協会の活動として引き継がれているのは(4)のみであるが、(2)も新聞社主催で継続がみられた（藤田1973b）、(6)も現在の区ごとの演奏会に影響がみられる。(1)、(3)、(5)は、戦時下の特殊な演奏機会であり、(6)も愛好者の活動に協会が介入した特殊な演奏機会であった。多くは三曲家の従来の活動の延長にあり、協会設立直後は、資料1の<4><5><6>のような意欲的な自主企画が目立ち、協会の組織力によって<17><18>のような大規模な演奏機会が実現したと考えられるが、後半は、上層部の影響が強まり、献金演奏会や芸能大会、慰問の割り当てが中心となった。

この時期に新作を発表した演奏家は、戦後に演奏と創作の両面で大きな役割を担った。このように自由な演奏活動が抑圧された時代でも、三曲家が、時局の要望に対応しながら、古典曲の演奏と新作の発表を続けていたことは記憶されるべきであろう。

4. 引用文献

櫻本富雄

1986 『シンガポールは陥落せり』東京：青木書店。

戸ノ下達也

2008 『音楽を動員せよ―統制と娯楽の十五年戦争』東京：青弓社。

戸ノ下達也（編）

2011 『音楽文化新聞』石川：金沢文園閣。

福田千絵

2014 「雑誌『三曲』にみられる十五年戦争期の邦楽演奏会」『お茶の水女子大学 人文科学研究』第10巻：57-67.

2015 「1940年代前半における大日本三曲協会の活動：雑誌『三曲』を通じて」
『お茶の水音楽論集』第16号：43-55.

藤田俊一

1973a 「尺八報国隊国民進軍歌大行進」『現代三曲名鑑』東京：日本音楽社：78.

1973b 「昭和後期年表略史」『現代三曲名鑑』東京：日本音楽社：86-121.

*本研究はJSPS科研費23720075の助成による。

資料1. 大日本三曲協会関連の演奏会

No.		年月日	催物	会場
<1>	尺 / 芸	1940/8/19	東京日日新聞社主催国民進軍歌内示発表会	歌舞伎座
<2>	尺 / 芸	1940/8/22	東京日日新聞社主催国民進軍歌一般発表会	日比谷大音楽堂
<3>	尺	1940/9/29	尺八報国隊予行演習	日比谷公園広場
<4>	尺	1940/10/6	尺八報国隊国民進軍歌大行進	日比谷大音楽堂
<5>	芸	1940/10/8	銃後奉公芸能大会	東京宝塚劇場
<6>	新 / 尺	1940/10/9	銃後奉公軍事援護に関する三曲新作発表大演奏会	共立講堂
<7>	尺	1940/11/3	尺八吹奏大行進	大阪阪急西横手
<8>	尺	1940/11/13	東京市奉祝会尺八報国隊	明治神宮外苑大競技場
<9>	芸	1940/11/20	紀元二千六百年奉祝芸能大会	築地東京劇場
<10>	尺	1940/11/23	市民慰安奉祝演技尺八報国隊	日比谷公園広場
<11>	新	1940/11/26	中央文化連盟奉祝芸能作品発表会	日比谷公会堂
<12>	尺	1940/12/1	紀元二千六百年奉祝中部日本尺八奉公団	名古屋鶴舞公園
<13>	三	1941/2/16	都新聞社主催三曲名流大会	日比谷公会堂
<14>	芸	1941/7/7	前線と銃後を結ぶ集い	歌舞伎座
<15>	芸	1941/7/20	海の芸能祭	上野松坂屋ホール
<16>	芸	1941/11/10	報国芸能大会（11日も）	東京劇場
<17>	新	1941/11/22	皇紀二千六百一年芸能祭三曲新作入選発表会	軍人会館
<18>	三	1941/12/13	大日本三曲協会演奏大会（14日も）	軍人会館
<19>	隣	1942/1/16	四区三曲隣組連合献金演奏会（17日も）	上野松坂屋ホール
<20>	隣	1942/1/31	各区三曲隣組演奏会（7月12日まで）	軍人会館ほか
<21>	尺	1942/2/18	新嘉坡陥落祝賀大東亜戦争士気昂揚大音楽行進	日比谷公園広場
<22>	三	1942/2/22	都新聞社主催三曲名流大会	日比谷公会堂
<23>	芸	1942/5/28	海軍記念日邦楽と舞踊の夕	日比谷公会堂
<24>	芸	1942/7/7	白衣勇士招待会	上野松坂屋ホール
<25>	慰	1942/7/20	白衣勇士尺八合奏会	小石川後樂園内酒徳亭
<26>	三	1942/11/28	大日本三曲協会演奏会（29日も）	青山会館
<27>	芸	1942/12/7	大東亜戦争一周年記念皇軍感謝芸能大会	日比谷公会堂
<28>	隣	1943/1/30	四区連合銃後奉公献金演奏会（31日も）	松坂屋ホール
<29>	隣	1943/2/6	各区三曲隣組献金演奏会開始	丸の内蠶糸会館ほか
<30>	三	1943/2/21	東京新聞主催三曲名流大会	日比谷公会堂
<31>	新	1943/4/24	第二回三曲新作入選発表会	軍人会館
<32>	慰	1943/6/19	帝都防衛部隊芸能慰問会	一橋講堂
<33>	新	1943/6/27	日本文化中央連盟主催戦力増強士気昂揚音楽会	共立講堂
<34>	慰	1943/11/23	第二次交換船帰国者講習会での三曲演奏	杉並区天沼練成所
<35>	三	1943/12/4	大日本三曲協会戦艦献納演奏会（5日も）	青山会館
<36>	新	1943/12/19	大日本三曲協会主催今井作「真珠湾特別攻撃隊」	共立講堂
<37>	芸	1944/5/30	第1回邦楽会（31日も）	明治座
<38>	芸	1944/7/1	第2回邦楽会（2日も）	新橋演舞場
<39>	慰	1944/7/1	産業戦士慰問隊中島飛行機〇〇製作所	中島飛行機〇〇製作所
<40>	新	1944/9/26	飛行協会東京新聞社主催航空士気昂揚邦楽大会	日比谷公会堂
<41>	慰	1944/9/27	陸軍恤兵部派遣慰問の為吉田晴風出発	中華民国中部
<42>	芸	1944/9/28	第3回邦楽会（30日まで）	歌舞伎座
<43>	新	1944/10/27	軍人援護に関する新作発表会（28日も）	歌舞伎座
<44>	三	1944/10/29	軍人援護資金献納三曲会	赤坂表町赤坂舞台
<45>	新	1944/11/12	文化中央連盟新作入選発表会	軍人会館

*尺：尺八報国隊、新：新作発表、芸：芸能大会、三：三曲演奏会、慰：慰問演奏、隣：隣組演奏会。

表1. 尺八報国隊の概要と曲目

*曲目欄の○は演奏されたことを示す。

	指揮	人数	行進	国民進軍歌	なぐさめむ	紀元二千六百年奉祝歌	愛国行進曲	君が代	六段の調
<1>		70以上	なし	○					
<2>		60	なし	○					
<3>			園内	○	○			○	
<4>	中尾都山	2,000以上	4km	○	○			○	
<6>	吉田晴風	30	なし	○					
<7>	上田芳憧	360	4km				○	○	○
<8>	吉田晴風	200以上	場内			○			
<10>	吉田晴風	200	園内			○			
<12>		300	4km			○			
<21>	吉田晴風	100	4km	○				○	

表2. 大日本三曲協会関連演奏会における新曲(協会主催)

<6>

曲名	作詞	作曲	作曲枠	楽器(当日の演奏者数)
天の試練	高野辰之	今井慶松	山田流箏曲	箏3名;三弦1名
誉の家族	佐々木信綱	山登松和	山田流箏曲	箏3名;三弦1名
つはもの家	長田幹彦	富崎春昇	生田流箏曲	箏三弦5名
帰還勇士を迎へて	佐藤春夫	米川親敏	生田流箏曲	箏4名;尺八1名
銃後の女性	葛原しげる	宮城道雄	新日本音楽	箏(宮城合奏団)

<17>

順位	曲目	作詞者	作曲者	演奏
一等	琴尺八二重奏曲	なし	衛藤公雄	箏1名;尺八1名
二等	琴独奏の為の奏鳴曲	なし	中田博之	箏1名
三等	豊穰の譜	江口博	米川敏子	箏3名;唄2名
三等	南進の賦	小野鳳山	伊藤松超	箏2名;歌2名
三等	琴三絃協奏曲	なし	隈崎萬寿男	三絃1名;十七弦1名
佳作	四季に寄せて	なし	中能島慶子	箏1名
佳作	肇国の歌	長田幹彦	富山清琴	箏1名;三弦1名
佳作	太子管	栗原廣太	渡邊浩風	箏3名;尺八;笙及箏篋
佳作	菊の栄	佐藤惣之助	吾孫子松鳳	箏2名;唄2名

*選外佳作として、富崎英美代《勤労の歌》、中倉松郷《栄えゆく御代》が「奨励賞」を受賞。

*米川の曲の唄2名は女性独唱と男性独唱。衛藤は伊藤、渡邊の曲を含め3曲演奏した。

<31>

順位	曲目	作詞者	作曲者	演奏
一等	御羽車	なし	米川敏子	箏2名
二等	勝利への曲	なし	衛藤公雄	箏;尺八
三等	日本の雨	なし	富山清琴	三弦2名
三等	箏独奏小組曲	なし	吉田純三	箏1名
佳作	故山の月	岡鬼太郎	中田博之	箏3名;三弦;尺八
佳作	秋の夜曲	なし	鈴木清壽	箏2名
佳作	誉の戦士に捧ぐ	なし	佐藤親貴	箏;尺八
佳作	万葉唱和	土岐善麿選	渡邊浩風	唄及箏;尺八

<45>

器楽			歌曲		
順位	曲目	作曲者	順位	曲目	作曲者
一等	建設のひびき	衛藤公雄	一等	防人の賦	富山清琴
二等	必勝の誓	米川敏子	二等	村の秋	岡安喜三郎
三等	富嶽三十六景	古川太郎	三等	アツツ櫻	中能島慶子
三等	大和の晨	鈴木清寿	三等	村の秋	衛藤公雄
佳作一位	戦野の夜	宮下哲郎	佳作一位	アツツ櫻	橘蓉子

表3. 大日本三曲協会関連演奏会における新曲(外部委嘱)

	曲名	作詞者	作曲者	演奏
<11>	祝典箏協奏曲	なし	宮城道雄	箏;尺八;宮城合奏団(箏;十七弦;三弦;尺八;フリユート;胡弓;笙;打物)
<11>	寄櫻祝	佐藤春夫	宮城道雄	箏;合唱;指揮
<36>	真珠湾特別攻撃隊	高村光太郎	今井慶松	箏3部;三弦2部;尺八;鳴物
<40>	若鷺		今井慶松	
<43>	起て一億		今井慶松	
<43>	菊の光		富崎春昇	
<43>	若櫻		宮城道雄	
<43>	すめくこの土		中能島欣一	

*<39>では、宮城道雄の既発表曲《モンペ姿》《打てや鼓》も演奏された。

表4. 大日本三曲協会が参加した芸能大会

	主催・後援	演奏者	曲目
<5>	軍事保護院、恩賜財団軍人援護会主催	役員19名と女性会員58名。舞踊あり。	《国民進軍歌》 《皆兵士だ弾丸だ》
<9>	東京興行者協会、日本技芸者協会主催	東京音楽学校の会と重なり、学校関係者を除いた家元が総出演	山田流箏曲《松上の鶴》、 生田流箏曲《御山獅子》
<14>	軍事保護院、軍人援護会、読売新聞社主催、陸軍省、海軍省、情報局、大政翼賛会後援	帰還軍人5名の尺八と協会の箏	《千鳥の曲》
<15>	芸能文化連盟主催、邦楽協会、大日本長唄連盟、大日本三曲協会、大日本舞踊連盟協賛		今井慶松《水の曲》、 吉田晴風《海》
<16>	芸能文化連盟主催	理事10名	《根曳の松》
<23>	海軍協会、芸能文化連盟主催 海軍省情報局後援	10名	山田流《壽くらべ》
<24>	朝日新聞社主催	萩岡松韻氏び門下17名	《愛国行進曲》 《六段の調》
<27>	芸能文化連盟、東京新聞社主催	生田流の理事11名	《吾妻獅子》

表5. 大日本三曲協会演奏大会の曲目

<18> 第1回

12月13日昼	落葉調(都) 斎の御田(山) 秋の曲(生) 勾当内侍(山) 旭光・舞曲(新) 嵯峨の秋(生) 御端夢(山) 乱輪舌(生) 七福神(山) 調べ・通り門附・鉢返(琴)
12月13日夜	春の調(山) 水は環りて(新) 龍の口(山) 雲井獅子(琴) 尾上の松(生) 紅葉(都) 六玉川(山) 三谷清垣(琴) 茶湯音頭(生) 新さらし(山)
12月14日昼	楓の花(生) 和歌の浦(生) 羽衣(新) 虚空鈴慕(琴) 壽くらべ(山) 祝い歌(山) 岩清水(都) 吾妻獅子(生) 御代万歳(山) 神遊び(山)
12月14日夜	落葉の踊・数え唄変奏曲(新) 寒砧(都) 赤壁賦(山) 鹿の遠音(琴) 曲鼠(生) 七小町(生) 十返りの松(山) 新娘道成寺(琴) 白の声(山) 東獅子(山)

<26> 第2回

11月28日昼	転菅垣(琴) 明治松竹梅(生) 雨夜の月(山) 四季の遊(山) 菊花端頌(新) 根岸の四季(山) 五段砧(生) 残月(生) 壽競(山) 湖上の月(都)
11月28日夜	秋田菅垣(琴) 大陸行進曲・躍進(新) 大海原(山) 若菜(琴) 嵯峨の秋(生) 千代の光(山) 花の雲(山) 近江八景(山) 青柳(生) 岡康砧(山)
11月29日昼	新浮舟(生) 松竹梅(琴) 小督の曲(山) 霜夜(都) 伏見(山) 水の変態(新) 鐘ヶ岬(山) 須磨の嵐(山) 狐会(生) 松風(生)
11月29日夜	潮風(都) 東亜の黎明(山) 竹心調(琴) 春秋(新) 鶴の巢籠(山) 収穫の野(生) 国の基(山) 御山獅子(生) 新曲四季の富士(山) 雲井獅子(琴)

*山：山田流箏曲、生：生田流箏曲、琴：琴古流尺八、都：都山流尺八、新：新日本音楽

ふくだ ちえ

お茶の水女子大学大学院修士・博士課程修了。博士（人文科学）。現在、お茶の水女子大学非常勤講師、川村学園女子大学非常勤講師。